

「安心のまちづくり」のために **第1回**

高齢者の暮らしを考える

労働人口が減り高齢者の人口が増え続けるなか、現在の介護や医療のサービスだけに頼ることは難しくなっています。市民の皆さんが少しでも健康な状態を保ち、地域で安心して暮らす社会の仕組みを維持し充実させていくためには、何が必要なのでしょう。これから一緒に考えていきませんか。

「地域包括ケア推進会議」始まる！

今、高齢者が、切れ目なく介護や医療のサービスを受け、住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けていくための仕組みが必要とされています。この仕組みを「地域包括ケアシステム」と呼んでいます。昨年7月、松阪市では多くの関係機関とともに、このシステムを活用し、人生の終末期に自宅での看取りも含めた「在宅医療」と「介護との連携」を推進するため、「地域包括ケア推進会議」を組織しました。

インタビュー ● 医療機関から「介護施設・在宅」へのシフト

地域包括ケアを推進するためには何が課題なのでしょう。当会議の長友薫輝会長に話を聞きました。（取材協力／株式会社生活サポート）

● 昨年7月に設置された地域包括ケア推進会議について教えてください。
今、国民の4人に1人が65歳以上という超高齢社会です。医療を必要とする高齢者が増えると、入院日数が短く限定されていくことにもなり



写真／左 長友 薫輝、右 小串 拓由

ますので、退院する人の受け皿が必要になってきます。つまり、国全体が医療機関から介護施設・在宅へとという流れが進むわけです。その体制をどうするかが最重要課題で、これを地域で解決していくための組織が地域包括ケア推進会議です。

お知らせ掲示板

下水道排水設備工事責任技術者試験

とき 11月25日(水)午後1時
ところ 三重県総合文化センター(津市 一身田上津部田)

受付期間 7月1日(水)～8月24日(月)

* 消印有効

問 (公財)三重県下水道公社 総務課
53・2331

第5回 いい人、見つけて結婚しよう 結婚を希望する男女の楽しい出会いの場

とき 8月16日(日) 正午～午後4時半

(受付 午前11時半～正午)

ところ 三重県総合文化センター生涯学習センター(津市)

対象者 20～40歳の男女

定員 150人(先着順 申込不要)

参加費 500円

問 NPO日本シルバークラブ

059・227・0072 中森

059・225・7000 横田

松阪市無形民俗文化財

松阪しよんがい音頭と踊り 保存会会員募集

音頭師さん・踊り手さん・太鼓のたたき手を募集します。

年会費 2000円

練習 2月2回(無料)

問 松阪しよんがい音頭と踊り保存会

事務局 坂上 52・6008

携帯 090・7033・6409

松阪もめんの焼き物展

とき 7月18日(土)～27日(月) 火曜休館
午前9時～午後5時(最終日は午後3時まで)

ところ 松阪もめん手織りセンター(本町)

問 松阪もめん手織りセンター
26・6355

●なぜ病院を早く出されるのでしょうか？

医療と介護の制度改正によって、医療機関での入院は手術等の治療が必要な人に限られてきました。それ以外の何らかの疾患を抱えている人は入院する日数を短くするとしているため、退院せざるを得なくなりますが、その人たちは主に療養中心の高齢者です。その人たちの行き先はどこになるのでしょうか？それを地域で用意することが必要なんです。

●病院を出されると不安に思う人も多いのでは？

医療と介護が途切れない体制が求められています。「悪くなったら病院へ、良くなったら介護施設・在宅へ」という行き来を円滑にするための仕組み、すなわち「地域包括ケア」を充実していくことが不安を少なくすることに繋がります。しかし、実際には、入院できない高齢者のケアや対応が「地域包括ケア」の役割となっていて、本来の「地域包括ケア」の役割を十分果たしているとは言えません。こうした政策の方向性を理解し、地域が支える仕組みづくりを早急に構築していく必要があります。この必要性については、住民はもちろん、専門職にもまだ浸透し

ているとは言えませんので、ここに地域包括ケア推進会議の役割があると考えています。

●どのような動きが必要なのでしょう？

まず専門職の人たちがその動きを担っていかねばいけないですね。現場の声を活かしていく、つまりボトムアップです。そのためにはどうすればよいのか？とよく聞かれます。例えば、在宅医療を重視するため、在宅での看取りが増えることが予想されますので、すでに多くの人を看取って奮闘してきた医師をはじめとする専門職の人たちの経験をもとに苦悩されている部分も含め、理解を広げていくことが重要です。

●在宅と聞くと大変なことにように思います。

専門職の人たちの理解を広げ、専門職を通じて患者や家族の理解を得ていくことが重要です。中には本人や家族の意思に反して退院を迫られ、在宅ケアとなるケースも増えるかもしれないませんが、医療や介護の現場で不安感や不信感を大きくするという事態は避けなければなりません。退院しても安心して暮らすことができる体制づくりが必要なんです。

●地域ぐるみの取り組みが必要ですね。

医師はケアマネージャーやヘルパーがどんな思いでケアしているのかを理解することも必要です。異なる専門職の仕事の内容、思いや悩みを共有することから始め、そのうえで地域住民の声を聞き、医療や介護への不安感や不信感に寄り添っていくことが専門職に求められます。

来院する患者の治療に専念していればいい、と考える医師も少なくありません。今は政策的にも医師をはじめとした専門職の働きが鍵となり、地域住民の動きも必要です。専門職が先陣を切って動くことは、高齢者が困っていること、必要としていることを知ってもらい、改善につなげていく一歩になると考えています。



長友 薫輝
(松阪市地域包括ケア推進会議 会長)
三重短期大学教授。
同大学地域問題研究所所長。
社会福祉士。
日本医療経済学会役員なども務める。

平成27年度自衛官等募集

防衛省では、平成28年春採用の自衛官(航空学生、一般曹候補生、自衛官候補生)と学生(防衛大学校、防衛医科大学校「医学科・看護学科」)を募集します。

問 自衛隊三重地方協力本部 津募集案内所
☎059・2224・4324
※<http://www.mnd.go.jp/pool/ie/>

自然観察会(カブトムシの蛹のその後)

とき 7月19日(日) 午前9時~正午(終了次第解散) *雨天の場合は室内学習
ところ 森林公園(伊勢寺町)

対象 小学生以上 *保護者同伴
定員 30人

参加費 1人500円(損害保険料含む)
申込方法 7月15日(水)までに、森林公園へ。

持ち物 〆お茶、タオル、帽子、軍手、虫かご、園芸用スコップなど

服装 自然観察会のできる服装
問 森林公園 ☎58・0040

ものづくり体験教室

ひらめき☆ときめきサイエンス

「光で発電!」から作る、あなたが作る太陽電池

シリコン太陽電池を作り、太陽電池でモーターが回ることを体験します。

とき ①9月19日(土) ②9月20日(日)
午前9時~午後5時

ところ 鈴鹿工業高等学校(鈴鹿市白子町)

対象 中学生
定員 各10人(先着順)

受講料 無料

申込方法 <http://www.suzuka-ci.ac.jp>
にアクセスし、独立行政法人日本学術振興会ホームページの申込フォームを入力

締切日 8月24日(月)
問 鈴鹿工業高等学校総務課
☎059・368・1717